



リリース 8.0.1

「真の発見の旅とは、新しい風景を探ることではなく、新たな視点を持つことである。」  
マルセル・プルースト

# リリースノート

JMP, A Business Unit of SAS  
SAS Campus Drive  
Cary, NC 27513

このマニュアルを引用する際は、次の正式名称を使用してください。SAS Institute Inc.  
2009.JMP® 8.0.1 Release Notes, Cary, NC: SAS Institute Inc.

## **JMP® 8.0.1** リリースノート

Copyright © 2009, SAS Institute Inc., Cary, NC, USA

All rights reserved. Produced in the United States of America.

**Web** からのダウンロードや電子本の場合：この出版物の使用については、入手した時点で、ベンダーが規定した条件が適用されます。

**U.S. Government Restricted Rights Notice:** Use, duplication, or disclosure of this software and related documentation by the U.S. government is subject to the Agreement with SAS Institute and the restrictions set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software-Restricted Rights (June 1987).

SAS Institute Inc., SAS Campus Drive, Cary, North Carolina 27513.

2009年3月初版

JMP®, SAS® and all other SAS Institute Inc. product or service names are registered trademarks or trademarks of SAS Institute Inc. in the USA and other countries. ® indicates USA registration.

Other brand and product names are registered trademarks or trademarks of their respective companies.

## 目次

テーブル	3	実験計画	7
列プロパティ	3	カスタム計画	7
検索	3	選択モデル計画	7
計算式エディタ	3	拡張計画	7
要約	3	標本サイズ/検出力	7
サブセット	3	分析	7
連結	3	一変量の分布	7
結合 (Join)	3	二変量の関係: 一元配置	9
データフィルタ	4	二変量の関係: 二変量	9
表の作成	4	二変量の関係: 分割表	9
読み込み/書き出し	4	モデルのあてはめ: 標準最小 2 乗	9
テキストの読み込み	4	モデルのあてはめ: ステップワイズ法	9
HTML の書き出し	4	モデルのあてはめ: MANOVA	9
Excel	4	モデルのあてはめ: 一般化線形モデル	9
ODBC	4	モデル化: スクリーニング	9
JMP のグラフの貼り付け	4	モデル化: 非線形回帰	10
ユーザインターフェース	5	モデル化: パーティション	10
環境設定	5	モデル化: 選択モデル	10
印刷	5	多変量: 多変量の相関	10
カスタムのメニューとツールバー	5	多変量: クラスタ分析	10
ジャーナル	5	多変量: 判別分析	10
JMP インストーラ	5	多変量: PLS	11
SAS インテグレーション	6	多変量: 項目分析	11
SAS アドイン	6	信頼性/生存時間分析: 寿命の一変量	11
ディスプレイ	6	信頼性/生存時間分析: 寿命の二変量	11
		信頼性/生存時間分析: 生存時間分析	12
		信頼性/生存時間分析: 生存時間 (パラメトリック) のあてはめ	12

グラフ .....	12	スクリプト .....	17
グラフビルダー .....	12	スクリプトエディタと JSL デバッガ...	19
チャート .....	13	JSL 関数の索引 .....	19
重ね合わせプロット .....	14	オブジェクトスクリプトの索引 .....	19
三次元散布図 .....	14	オートメーション .....	19
等高線図 .....	14	Windows .....	19
バブルプロット .....	14		
パラレルプロット .....	14		
セルプロット .....	14		
ツリーマップ .....	15		
散布図行列 .....	15		
管理図 .....	15		
変動性図/ゲージチャート .....	16		
パレート図 .....	16		
工程能力 .....	16		
プロファイル .....	16		
等高線プロファイル .....	16		
曲面プロット .....	17		
配合プロファイル .....	17		

## テーブル

- 他のウィンドウが最大化されているときでも、「検索」ダイアログボックスが最大化された状態で開かなくなりました。
- データテーブルに列グループがあり、起動ダイアログボックスが開いている場合に、データテーブルに列を追加する作業が正しく実行されるようになりました。
- JSL の Maximize Display コマンドを使用したときにテーブルのグリッドが消えてしまうエラーが修正されました。
- 行の属性列内で、カスタマイズした色が正しく割り当てられるようになりました。
- データテーブル内で行をコピーし、別のデータテーブル内で [列名とともに貼り付け] コマンドをクリックすると、コピーした行を列名として利用できるようになりました。

## 列プロパティ

- 数値変数に対して「データの出現順」を指定した場合、再コード化などで動作に誤りが生じる問題が修正されました。
- **By** 変数を使用して分析を行ってからその **By** 変数の列プロパティを変更した場合、新たに分析を行っても変更した列プロパティが正しく反映されない問題が修正されました。
- **By** 変数に値ラベルがある場合に **By グループ** のスクリプトが正しく処理されない問題が修正されました。
- 列のグループ化やグループ化解除の情報が正しく保存されない場合がある問題が修正されました。
- 新しい列を作成した際に指定した小数点以下の桁数の情報が正しく保存および適用されるようになりました。
- 数値で始まる値ラベルの値を、列情報ウィンドウに正しく貼り付けできるようになりました。

## 検索

- 正規表現を使った**検索**操作と**置換**操作が正しく機能するようになりました。

## 計算式エディタ

- 不完全な計算式の表現 (関数の引数を指定しないなど) をスクリプトで指定した場合も計算式エディタで正しく表示されるようになりました。
- 日付/時間形式の y/m/d h:m と y/m/d h:m:s の区切り文字がコンピュータのロケールを設定を正しく反映するようになりました。

## 要約

- 要約で複数の分位点を指定したときに結果が正しくない場合がある問題が修正されました。

## サブセット

- 「ソース」スクリプトに、選択されていた列だけでなく選択されていた行の指定も含まれるようになりました。

## 連結

- [最初のテーブルに追加] オプションをオンにしたとき、余分なテーブルスクリプトが追加される問題が修正されました。
- 連結の処理中、「連結」ダイアログボックスの [OK] ボタンが見えなくなる問題が修正されました。
- 連結を複数回行ったとき、データテーブルが誤って非表示になる場合がある問題が修正されました。

## 結合 (Join)

- [結合 (Join)] ダイアログボックスが開いた状態でソーステーブルの行を削除すると JMP が終了してしまう問題が修正されました。

## データフィルタ

- 「フィルタ列の追加」のリストでフォントが小さく表示されてしまう場合がある問題が修正されました。
- 以前書かれたスクリプトの中に古い表示オプションが含まれている場合、そのオプションが正しく解釈されない問題が修正されました。
- [アニメーション] コマンドがカテゴリカル変数でも機能するようになりました。
- 「データフィルタ」のダイアログボックスで連続尺度の変数の範囲を表す不等式の数値の桁が正しく表示されない場合がある問題が修正されました。
- リストボックス内のスクロールバーが正しく動作しない場合がある問題が修正されました。

## 表の作成

- [すべて] のキーワードを表にドラッグしても正しく動作しない問題が修正されました。
- 表中の列を削除してから HTML 形式で保存した場合、表が HTML のテーブルとして正しく出力されない場合がある問題が修正されました。
- リストボックス内で 17 個以上の列を選択できるようになりました。
- 分位点のパーセンテージとして 0 を指定できるようになりました。
- 表の作成で複数の分位点を指定したときに結果が正しくない場合がある問題が修正されました。
- 表の作成のスクリプトで、Add Aggregate Statistics( 集計統計量の追加 ) メッセージを空のグループ列に送られるようになりました。

---

## 読み込み／書き出し

### テキストの読み込み

- プレビューウィンドウで指定した 2 桁の年表記ルールが正しく動作しない問題が修正されました。
- .csv ファイルや .tsv ファイルを読み込むときに、列名のある行およびデータの開始行の環境設定が無視される問題が修正されました。

### HTML の書き出し

HTML 形式で保存したときに、表の濃淡の表示が反映されるようになりました。

### Excel

- Excel ファイルを読み込む際、列名に含まれている日付の形式が無視され数値となる問題が修正されました。

### ODBC

- [テーブルの保存]、[テーブルの削除] の各コマンドを使ったとき、テーブルリストが自動的に更新されるようになりました。
- テーブルを開くときに [詳細] ボタンで表示されるウィンドウに、前の SQL ステートメントが残る問題が修正されました。
- MySQL ODBC 5.1 Driver を使ってデータを書き出す場合に、文字データが切り詰められたり、一重引用符が挿入されたりすることがなくなりました。

### JMP のグラフの貼り付け

- JMP のグラフをビットマップで他のアプリケーションに貼り付けたときに文字が消えてしまう場合がある問題が修正されました。
- 予測プロファイルをコピーして Microsoft Word などの他のアプリケーションに貼り付けた場合、信頼区間曲線が実線ではなく点線で表示されるようになりました。

## ユーザインターフェース

- ウィンドウが1つも開いていないときは [編集] メニューのオプションがグレースアウトされ選択できないようになりました。
- Windows のツールバーで、ツールが選択できない状態にあるときのアイコンの外観が改善されました。
- ダイアログボックスで Esc キーが「キャンセル」として動作しない問題が修正されました。
- Windows エクスプローラでジャーナルのサムネイルの一部が表示されない問題が修正されました。

## 環境設定

- 「応答のシミュレート」が「実験計画 (DOE)」プラットフォームの環境設定に追加されました。
- 「非線形回帰」プラットフォームの信頼限界に関する環境設定が正しく適用されるようになりました。
- 「フォント」で、列見出しのフォント ([見出し]) とセル内のデータのフォント ([データテーブル]) を別々に指定できるようになりました。
- 「テキストデータファイル」で、「フィールドの終わり」または「行の終わり」に独自の文字を設定しても ([その他] で指定) 正しく機能するようになりました。
- 「ファイルの場所」で、「データファイル ディレクトリ」のファイルパスを削除できるようになりました。
- 「レポート」で、「グラフ背景色」を変更すると、すべてのグラフに適用されるようになりました。

## 印刷

- 背景色が異なる複数のレポートを印刷したときでも軸のグリッド線の色が揃うようになりました。

## カスタムのメニューとツールバー

- Windows でユーザによって定義されたキーボードショートカットが、JMP を再起動しなくても動作するようになりました。サポートされていないショートカットを使用したときはエラーメッセージが表示されます。

## ジャーナル

- ジャーナル内のグラフに加えた変更が一部正しく保存されない問題が修正されました。
- ジャーナル内の項目が一部削除できない場合がある問題が修正されました。
- 「ニューラルネット」プラットフォームの曲面プロットのジャーナルで、点の表示の設定が正しく反映されるようになりました。
- 空のジャーナルファイルを保存したときに JMP が終了してしまう問題が修正されました。

## JMP インストーラ

- アップデートされた SAS OLE DB Provider がインストールされるようになりました。

---

## SAS インテグレーション

- 現在開いている SAS データセットの内容が、現在の表示から変化した場合、そのデータセットを再び開くと新しい JMP データテーブルとして表示されるようになりました。
- JMP と SAS ワークスペースサーバーで異なるロケールを使用している場合でも、データの読み込みが可能になりました。
- SAS 9.2 Metadata Server 上で十分な許可がない場合に JMP が終了してしまうエラーが修正されました。
- JMP から MVS にコードをサブミットしてもエラーメッセージが表示されなくなりました。
- SAS データセットの読み込み中に表示される進捗バーの更新頻度が少なくなりました。
- Macintosh マシンで、グラフを含む ODS 結果を生成するプログラムを **SAS でサブミット**したときに誤ったエラーメッセージが表示される問題が修正されました。

## SAS アドイン

- リモートの SAS 接続で実行できるようになりました。
- ロバスト回帰でのデータの読み込み時に、列名として SAS の列ラベルを使用する環境設定が正しく反映されるようになりました。

---

## ディスプレイ

- レポートの赤い三角ボタンを Ctrl+Alt+ クリックしたときのコマンドが、同じタイプのすべてのメンバーに適用されるように修正されました。
- 散布図などのグラフで、Ctrl+Alt+ 右クリックし **【行の凡例】** を選択したとき、**By** グループのすべてのメンバーに適用されるように修正されました。
- ダイアログボックスで選択項目を選ぶために Enter キーを押すとダイアログボックスが終了してしまうエラーが修正されました。
- フォントサイズの変更が JMP 全体で正しく反映されるようになりました。
- 行の凡例で、順序変数の色が正しく表示されるようになりました。
- Linux マシンで、独自に設定した色がパレット図に正しく適用されるようになりました。
- By グループなどにより複数のレポートを表示しようとしたときに、一部のレポートで結果が表示されないという問題が修正されました。
- 強調表示されたレポートの出力部分を、選択ツールを使って選択すると見えなくなってしまう問題が修正されました。
- **【マーカー描画モード】** > **【高速】** を選択したとき、マーカーが正しく描画されるようになりました。
- 「行の凡例」ダイアログボックスに **【除外されている行】** チェックボックスが加わりました。
- Windows マシンで「線の幅のスケール」オプションが機能するようになりました。
- SAS 出力と JMP ジャーナルの両方のグラフ形式が適切に処理されるようになりました。
- Windows マシンで直線がくっきりと表示されるようになりました。
- 「軸の指定」ダイアログボックスで形式に日付を指定した場合、目盛り間隔を選択するためのメニューが表示されるようになりました。
- 環境設定の **【出力に日付タイトルを表示する】** がオンになっている場合、コンピュータのロケールの設定を正しく反映した日付・時刻形式が使用されるようになりました。
- 「列の値によるマーカー分け」のウィンドウで、除外された行も対象とするかどうかの指定ができるようになりました。

---

## 実験計画

### カスタム計画

- 分割実験を作成する際、最小実験回数が正しく計算されるようになりました。
- 中心点の数と線形制約の両方を指定した場合、中心点が線形制約に従って正しく追加されるようになりました。
- 応答曲面効果の数が 20 を超える場合、制限に関する警告がエラーメッセージとして表示されてしまう問題が修正されました。

### 選択モデル計画

- [事前分散の指定を無視] オプションが正しく機能するようになりました。
- 1 テーブル形式の分析用にデータテーブルに保存された「選択モデル」スクリプトが、データテーブル名を変更したときでも正しく動作するようになりました。

### 拡張計画

- 配合因子と非配合因子の両方がある計画を拡張したとき、特異な計画行列が作成される問題が修正されました。

### 標本サイズ／検出力

- シグマクオリティにおいて、無効な値を指定することができなくなりました。
- 1 標本割合と 2 標本割合で入力された割合の値が適正な範囲のものかチェックされるようになりました。
- 1 標本割合と 2 標本割合で、差の値の計算精度が向上しました。
- 2 標本割合の計算が高速になりました。

---

## 分析

- [分析] メニューのオプションを使って開いたダイアログボックスで、複数の変数に [重み] または [度数] の役割を割り当てた場合や、欠測値しかない列に [By] を割り当てた場合に表示されていた複数のエラーメッセージが 1 つにまとめられました。

### 一変量の分布

- 分位点プロットの軸のスケールが改善されました。
- 一変量の分布のジャーナルを保存した場合に、数値の形式が適切に維持されるようになりました。
- [分析の再起動] コマンドを実行したとき、「一変量の分布」ダイアログボックスへの入力が自動的に行われるようになりました。
- [度数] を指定した分析で [スケールの統一] オプションを使用したとき、ヒストグラムの棒が正しく表示されるようになりました。
- [Poisson 分布のあてはめ] と [ガンマ Poisson のあてはめ] の確率曲線が改善されました。
- 「一変量の分布」スクリプトに、短期シグマで計算した工程能力分析が保存されるようになりました。
- 「一変量の分布」ダイアログボックスで [前回の設定] コマンドを使用したとき、すべてのフィールドに正しく自動入力されるようになりました。
- シャドウグラムでの選択が改善されました。
- ベータ二項分布またはガンマ Poisson 分布での工程能力分析において、LSL が 0 の場合、LSL を下回るパーセントも常に 0 となります。
- [自動再計算] を使用しているときに、すべての行を削除すると JMP が終了してしまうエラーが修正されました。

## JMP 8.0.1 リリースノート

- 連続変数の分布に密度曲線をあてはめた場合の描画精度が改善されました。
- 棒の幅が狭いヒストグラムで **[棒の幅の設定]** コマンドを使ったときの処理が改善されました。
- 連続変数の分布にあてはめた分位点が正しく保存されるようになりました。
- 過分散のあるベータ二項分布を 0 に固定した場合、二項分布のあてはめと同じ分析結果が出るようになりました。
- ガンマ分布のあてはめに閾値パラメータを指定できるようになりました。
- 工程能力レポートを含むレポートを積み重ねて表示したときに工程能力レポートが消えてしまうエラーが修正されました。
- 複数の列に欠測値がある場合、表示されるエラーメッセージが 1 つにまとめられました。
- **[すべての分布をあてはめ]** オプションを実行した場合、進捗バーに現在あてはめられている分布名が正しく表示されるようになりました。
- データを除外した場合に Poisson 分布の信頼区間と尤度が正しく計算されるようになりました。
- **[すべての分布をあてはめ]** をクリックしたあと、**[キャンセル]** ボタンが正しく機能するようになりました。
- ガンマ Poisson 分布で、過分散パラメータ  $\sigma$  の下限値が 1 となりました。これまでは、下限値を下回る  $\sigma$  を指定してもう一方のパラメータを計算し直すことが可能でしたが、JMP8.0.1 では過分散パラメータの値が小さすぎることを示す警告メッセージが表示されるようになりました。
- ベータ二項分布で、過分散パラメータ  $\delta$  の下限値が  $p$  (もう一方のパラメータ) と  $n$  (標本サイズ) に依存するようになりました。これまでは、下限値を下回る  $\delta$  を指定してもう一方のパラメータを計算し直すことが可能でしたが、JMP8.0.1 では過分散パラメータの値が小さすぎることを示す警告メッセージが表示されるようになりました。
- 度数軸の変更がヒストグラムの棒に反映されるようになりました。
- Johnson Sb 分布は、他の分布に比べて過度にあてはまりが良くなる場合があるため、**[すべての分布をあてはめ]** から除外されました。
- ベータ二項分布で、 $\delta$  が負の値であるときの確率プロットが正しく描画されるようになりました。
- ベータ二項分布のあてはめで分位点が正しく保存されるようになりました。
- ガンマ Poisson 分布のあてはめで分位点が正しく保存されるようになりました。
- オブザベーションが 1 つしかないデータセットにガンマ Poisson 分布またはベータ二項分布をあてはめようとするとエラーメッセージが表示されるようになりました。
- 固定パラメータがある場合に **[あてはめたモデルの分位点を保存]** オプションを実行すると、正しい値が保存されるようになりました。
- ベータ二項分布で、 $\delta$  パラメータの信頼区間の計算が改善されました。
- Weibull または極値分布の適合度検定で、 $p$  値が正しく計算されるようになりました。
- ベータ二項分布のあてはめに失敗した場合に、1 より大きい  $p$  値がレポートされることがなくなりました。
- ベータ二項分布で、 $\delta$  が 0、 $n$  が 1 の場合に正しい確率関数が計算されるようになりました。
- 二項分布とベータ二項分布の関数が、整数でない  $n$  の値を正しく処理するようになりました。
- 二項分布とベータ二項分布で  $p$  を 1 に固定した場合、尤度比検定が計算されなくなりました。
- 分位点シグマプロットで、ノンパラメトリックな密度曲線が正しく描画されるようになりました。
- **[工程能力アニメーション]** コマンドは、正規分布をあてはめた場合にのみ使用できるようになりました。
- **[K シグマから仕様限界を設定]** オプションが追加されました。このコマンドは、正規分布の K シグマにおける累積確率に相当する分位点を、あてはめた特定の分布で求めて、それを工程能力分析の仕様限界に設定します。
- 負の値を含むデータに 2 パラメータの Weibull 分布をあてはめると、エラーメッセージが呼び出されるようになりました。
- ヒストグラムの棒の数がデータの範囲で制限されることがなくなりました。

- 分布をあてはめた後、[分位点] オプションでより正確な確率を使用できるようになりました。
- [平滑曲線] と [仕様限界] のオプションを使った工程能力分析がより高速になりました。
- 環境設定の [積み重ねて表示]、[二項]、[診断プロット] が正しく動作するようになりました。
- 「工程能力」レポートで、信頼区間が長期シグマに対してのみ計算されるようになりました。

### 二変数の関係：一元配置

- Y変数の値がすべて欠測である場合にエラーメッセージが表示されるようになりました。
- 表示オプションの [点の拡散] をオンにした状態でなげなわツールを使用したとき、選択したデータ点が残らず含まれるようになりました。

### 二変数の関係：二変量

- [グループ別] オプションを実行したとき、レポートで値ラベルが使用されるようになりました。
- 「パラメータ推定値」表で、制約された、0でない切片項に「ゼロに固定」ではなく「制約」と表示されるようになりました。
- レポートのタイトルバーからプラットフォームメニューを開いて [グループ別] を選択し、ダイアログボックスで列をダブルクリックしたときに、その列がリストから消えてしまう問題と、そこで [OK] をクリックしたときに JMP が終了してしまう問題が修正されました。

### 二変数の関係：分割表

- モザイク図で長いラベルが使用されているときのレンダリングが改善されました。
- 度数列の値が有効でない場合のエラーメッセージが正しく表示されるようになりました。
- 欠測値しかない（またはすべての行が除外されている）列を指定したとき、エラーメッセージが表示されるようになりました。
- Cochran-Mantel-Haenszel 検定の検定統計量の計算において共分散行列が特異性になった場合に、その特異性が正しく検出されるようになりました。

### モデルのあてはめ：標準最小2乗

- 差が推定不可能な場合は欠測値が表示されるようになりました。
- レポート内で [推定値の並べ替え] オプションがオフになっているときに、スクリプトが正しく保存されるようになりました。
- 配合因子を使って最小2乗法によるあてはめを行う場合、および「ベース配合成分」のテーブルプロパティがある場合は、Cox 配合モデルが自動的に計算されるようになりました。
- 節点スプライン効果があるときの最小2乗平均が正しく計算されるようになりました。

### モデルのあてはめ：ステップワイズ法

- 切片のないモデルで、[すべてのモデル] が正しく作成されるようになりました。

### モデルのあてはめ：MANOVA

- 保存したスクリプトに複数の応答関数が含まれるようになりました。
- レポートのタイトルがスクリプトに正しく保存されるようになりました。

### モデルのあてはめ：一般化線形モデル

- 配合因子があるときには曲面プロファイルを使用できないようになりました。

### モデル化：スクリーニング

- データテーブルが大きく、分析に時間がかかる場合に警告メッセージが表示されるようになりました。Esc キーを使って分析をキャンセルできます。

### モデル化：非線形回帰

- **By** 変数または **Where** 節を使った計算式が正しく保存されるようになりました。
- 重みが 0 の場合に正しい標準誤差が計算されるようになりました。
- 非線形モデルライブラリで、曲面プロットの軸の目盛数が適切になりました。
- 非線形モデルライブラリで、名前に「/」が含まれる列に対し、正しい計算式が作成できるようになりました。
- 非線形モデルライブラリで計算式のグラフを表示できるようになりました。
- 非線形モデルライブラリで、説明変数を 3 つ以上含めた計算式を作成できるようになりました。
- 非線形モデルライブラリのグラフのスライダが正常に機能するようになりました。

### モデル化：パーティション

- [By グループでまとめてスクリプト化] で、スクリプトが正しく保存されるようになりました。
- K 分割交差検証がスクリプトに正しく保存されるようになりました。

### モデル化：選択モデル

- レポートから「全水準の推定値」表を削除できるようになりました。
- 変数を「モデル効果」ボックスにドラッグしたときに JMP が終了してしまうエラーが修正されました。
- 1 テーブル形式の分析用にデータテーブルに保存された「選択モデル」スクリプトが、データテーブル名を変更したときでも正しく動作するようになりました。
- 尤度比検定が大幅に改善され、あてはめが収束しないときにも対処できるようになりました。

### 多変量：多変量の相関

- 変動のないデータで Mahalanobis の距離と  $T^2$  の距離が 0 になってしまうエラーが修正されました。
- 「多変量の相関」スクリプトが完全な形でデータテーブルに保存されるようになりました。
- 欠測値または強い線形従属性があるデータで REML による推定を行うとき、確率楕円が表示されるようになりました。
- 変数に変動がない場合の「ペアごとの相関係数」の値とそのラベルが正しく表示されるようになりました。
- 「外れ値分析」プロットが、他のプロットから独立し、削除可能になりました。
- 楕円の Alpha や楕円の透明度のデフォルト値を変更したときに JMP が終了してしまうエラーが修正されました。
- 散布図行列の [自動再計算] がデフォルトでオンになりました。
- 大規模なデータセットで Mahalanobis の距離または  $T^2$  の距離を選択したときに JMP が終了してしまうエラーが修正されました。
- ロバスト推定法を用いたときに JMP が終了してしまうエラーが修正されました。
- ある列のペアに対し、両方の列が非欠測値である行がない場合、REML ではなくペアワイズ法で推定が行われるようになりました。

### 多変量：クラスター分析

- クラスター分析で **By** 変数を使用した場合、レポートに表示されたクラスター識別子 (クラスター、表示順序) を保存することができます。
- [分析の再起動] コマンドを実行したとき、起動ダイアログボックスへの入力 that 自動的に行われるようになりました。

### 多変量：判別分析

- [プロット点の色分け] オプションにより、順序尺度の値に正しい色が割り当てられるようになりました。

## 多変量 : PLS

- 定数の応答または効果があるときに JMP が終了してしまうエラーが修正され、代わりにエラーメッセージが表示されるようになりました。
- XスコアとYスコアのプロットで、軸のデフォルトの最小値と最大値が正しく設定されるようになりました。

## 多変量 : 項目分析

- 項目分析プラットフォームで、欠測値を含む度数列が処理できるようになりました。

## 信頼性 / 生存時間分析 : 寿命の一変量

- 「ノンパラメトリック推定値」表にある列のうち、次の2つの名前が変更されています。
  - 2列目の「推定値」が「中間点推定値」になりました。
  - 最終列の「Kaplan-Meier」が「Kaplan-Meier 推定値」になりました。
- 初めて「分布」の選択を行ったときにウィンドウが下へスクロールされるエラーが修正されました。
- [手動による選択] を指定した状態で、スクリプトを保存または [分析のやり直し] コマンドを実行したときに JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- 閾値分布の分位点関数の信頼区間を計算する計算式が修正されました。
- オブザベーションの数を計算する際、[度数] 列が考慮されるようになりました。
- 指数分布パラメータの、故障がまったくないときの下側信頼限界が正しく計算されるようになりました。
- 故障がまったくないデータで [度数] 列が無視されなくなりました。
- 競合原因分析において、原因の1つにおいて分布を変更したときに JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- 確率プロット上で点をプロットする際、Kaplan-Meier 推定値ではなく、中間点推定値が使用されるようになりました。
- 閾値分布で、累積分布関数の信頼区間を表すポリゴンがより滑らかになりました。
- 競合原因分析のプロットにおいて、ブラシツールで点を選択できるようになりました。
- 「信頼区間の方法」のスクリプトが環境設定での指定と違う言語で保存される問題が修正されました。
- [点の表示] コマンドが新しく加わりました。このオプションをオンにすると、Kaplan-Meier 推定値のステップ関数ではなく中間点推定値の点がプロットに表示されます。デフォルトではオンになっています。

## 信頼性 / 生存時間分析 : 寿命の二変量

- 「時間加速プロット」が「加速係数」、「時間加速プロファイル」が「加速係数プロファイル」という名称に変わりました。
- 散布図から分位点曲線を削除するときのダイアログボックスのタイトルが「曲線の削除」から「分位点曲線の削除」に変わりました。
- データに除外された行または欠測値がある場合でも、Wilcoxon 検定が算出されるようになりました。
- [時間加速の基準を設定] オプションで値を入力すると JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- [時間] 変数が欠測値である行がある場合、それらを除外して確率プロットやパラメータ推定が求められるようになり、結果が正しくなりました。
- 包含モデルの検定における確率プロットの表示順序が逆になり、「別々の位置と尺度」、「別々の位置」、「回帰」の順で表示されるようになりました。なお、「効果なし」プロットはデフォルトでは表示されません。
- 加速因子プロットのY軸に表示されていた「時間」変数のラベルが削除されました。なお、このY軸は、時間加速係数を示しています。
- 起動ダイアログボックスで [包含モデルの検定] チェックボックスをオフにした場合でも、[散布図] メニューに [密度曲線の表示] コマンドが表示されるようになりました。

- 散布図上の密度曲線のポリゴンがより滑らかになりました。
- [包含モデルの検定] オプションがオンになっている場合でも、「散布図」のアウトラインノードがデフォルトでレポートの冒頭に開いた状態で表示されるようになりました。
- 「包含モデルの検定」の表が、解釈しやすいように改善されました。
- [点の表示] コマンドが新しく加われました。このオプションをオンにすると、Kaplan-Meier 推定値のステップ関数ではなく中間点推定値の点がプロットに表示されます。デフォルトではオンになっています。

### 信頼性／生存時間分析：生存時間分析

- 信頼率の等高線図がスクリプトに保存されるようになりました。
- 区間打ち切りのデータで開始点と終了点両方の打ち切りの値が欠測値になっている場合にJMPが終了してしまう問題が修正されました。このようなケースは、行が除外され、度数が0であるものとして扱われます。

### 信頼性／生存時間分析：生存時間（パラメトリック）のあてはめ

- [確率プロファイル] コマンドが、プロファイルのタイトルバーに合わせて [分布プロファイル] に変更されました。
- [分布プロファイル] のコマンドがスクリプトに保存されるようになりました。
- 分布プロファイルの [因子設定] > [行のデータを設定] コマンドで行番号を指定した場合、説明変数と同様に時間変数もその行の値に設定されるようになりました。

---

## グラフ

### グラフビルダー

- グラフをカスタマイズした場合、そのカスタマイズした内容がスクリプトに正しく保存されるようになりました。
- グラフビルダーの出力を PNG ファイルとして保存したとき、ウィンドウの影のようなものが含まれてしまう問題が修正されました。
- Y に連続尺度の変数を 1 つだけ指定し、X に何も変数を指定していないとき、ブラフ要素を棒に変更すると表示されなくなってしまう問題が修正されました。
- Y または X に連続尺度の変数を 1 つだけ指定した場合、[点をずらす] オプションがデフォルトでオンになりました（データ点が 1 つしかない場合を除く）。
- 「凡例の設定」に変更を加えると、[線の幅] の設定がなくなってしまう問題が修正されました。
- 軸のタイトルが重なって表示されるような場合には、重ならないよう列名を短縮して表示するようになりました。
- デフォルトの統計量をプラットフォームの環境設定で指定できるようになりました。
- ドロップゾーンを表す線や文字のデフォルトの色（グレー）とウィンドウの背景色が同じ色の場合、これらの線や文字が見えなくなってしまう問題が修正されました。
- 環境設定でラベル位置のオプションをオンにしたとき、グラフビルダー起動時にエラーが発生する問題が修正されました。
- モザイク図を横向きにしようとするときエラーが発生する可能性がある問題が修正されました。
- 1 つのグラフに 5 つ以上の要素を含めることができるようになりました。
- グラフビルダーでフレームのサイズに関するコマンドを使用できるようになりました。
- 操作中に [元に戻す] のボタンがグレーアウトされ選択できないことがある問題が修正されました。
- グループ変数の水準の数は 2 から 10 まで指定可能になりました。
- X 軸や Y 軸の変数に対して順序付けを行っている場合に、その順序付けの情報が変数を交換するとなくなってしまう問題が修正されました。

- 凡例に、プロット要素に合ったコンテキストメニューが表示されるようになりました。
- Ctrlキーを使ってグラフ内を右クリックしたときにJMPが終了してしまう場合がある問題が修正されました。
- ジャーナルにしたときにグラフの枠線が一部消える場合がある問題が修正されました。
- [自動再計算] コマンドがオンになっているときに行を除外すると、グラフの要素が変わってしまう場合がある問題が修正されました。
- 複数のグループ変数を使用したときに、グラフを右クリックした際のコンテキストメニューに動作しないものが含まれている問題が修正されました。
- 環境設定の「グループ Y のラベル位置」の指定が正しく動作しない問題が修正されました。
- グラフを貼り付けると、凡例の一部が消える場合がある問題が修正されました。
- 水準がない（欠測値のみ）のカテゴリカル変数を X または Y に指定した場合、その軸にアクセスしようとすると JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- グループ Y のサイズを小さくしたときにグラフビルダーレポートが消えてしまう問題が修正されました。
- Y 軸変数が複数ある場合に凡例とデータのマーカーが一致しない場合がある問題が修正されました。
- グラフ内の点を選択すると、ラベルや凡例のフォントが変わってしまう場合がある問題が修正されました。
- 重ね合わせに含まれるカテゴリの 1 つが欠測している場合に箱ひげ図が正しく表示されない問題が修正されました。
- 段組変数に多数の水準がある場合、できるだけ正方形に近いグリッドが作成されるようになりました。
- X 変数もしくは Y 変数が複数ある棒グラフを描いている場合に、X 変数もしくは Y 変数の一部の表示と非表示を切り替えた時、JMP が終了してしまったり、棒の表示と非表示が正しく切り替わらなかったりする問題が修正されました。

### チャート

- 棒を積み重ねたときに Y 軸の目盛りラベルが中心に揃って表示されるようになりました。
- 一部の行が選択または除外されているときに値ラベルが正しく表示されない問題が修正されました。
- 円グラフのサイズを変更した場合、スクリプトを保存してもその変更が反映されない問題が修正されました。
- 円グラフのラベルの形式を変更した場合、スクリプトを保存してもその変更が反映されない問題が修正されました。
- 棒グラフを PNG ファイルとして保存したときに輪郭がぼけなくなりました。
- 円グラフの背景色をカスタマイズした後、[分析のやり直し] を使用したときに背景色が維持されるようになりました。
- 円グラフのフレームサイズをカスタマイズした後、[分析のやり直し] を使用したときにフレームサイズが維持されるようになりました。
- Windows マシンで円グラフの一部をクリックしたとき、ステータスバーに「0 行が選択されています」と表示されるエラーが修正されました。
- 「チャート」のグループ変数に範囲による値ラベルが指定されていて、[値ラベルの使用] オプションがオンになっているとき、棒グラフの棒が値ごとではなくラベルのカテゴリごとに作成されるようになりました。
- 参照線のラベルが目盛りラベルに重なって表示される問題が修正されました。
- 「軸の指定」ウィンドウで形式を h:m に設定し、デフォルトの「最小値」または「最大値」を変更した場合のエラーメッセージが表示されなくなりました。
- [データ] として設定した Y 変数（統計量）に値ラベルを適用できるようになりました。

## 重ね合わせプロット

- [点をつなぐ] と [点の表示] の環境設定、および関連する設定がスクリプトに正しく保存されるようになりました。
- Y 変数の計算式に [グループ変数] の値による If/Then ステートメントが含まれている場合、関数プロットを作成できるようになりました。
- プラットフォームオプションの [グループの重ね合わせ] がオンになっているときになげなわツールを使うと、すべての点を選択されるようになりました。
- [グループ変数] 列が3つ以上あり、2番目の列に水準が1つしかない場合に、点がすべて正しくグラフ化されるようになりました。

## 三次元散布図

- [ノンパラメトリック密度] オプションで [次の列の値ごとに行う] の指定がスクリプトに正しく保存されるようになりました。
- 壁の色を黒に設定したとき、グリッド線が白で表示されるようになりました。
- [ズーム] 機能を使ったときに矢印や点がスケールされ、全体的な視点を妨げないようになりました。
- [自動再計算] がデフォルトでオンになりました。
- 分析列を削除した後で [成分の回転] を実行すると JMP が終了してしまうエラーが修正されました。

## 等高線図

- 等高線の色を黒に変更したとき、変更内容がスクリプトに保存され、[分析の再実行] コマンドの実行時に正しく適用されるようになりました。
- 等高線レベルを指定しないときの等高線レベルの最大数が9に変更されました。
- グラフ上で等高線や塗りつぶし、境界線、マーカーをカスタマイズした場合に正しく反映されるようになりました。
- 「データフィルタ」を使っていて、等高線図の [自動再計算] オプションがオンになっているときに [再計算] ボタンをクリックすると、その [By] グループに対して新しいレポートが作成されます。
- 列の「軸」プロパティのグリッド線オプションが正しく適用されるようになりました。

## バブルプロット

- バブルを分割してできたバブルが元の軸の範囲から外れた場合、軸の範囲が更新されるようになりました。
- Flash 形式で保存したプロットで、JMP と同じカラーテーマが使用されるようになりました。
- [X を合計で表示] または [Y を合計で表示] をオンにしたときに軸ラベルが消えてしまうエラーが修正されました。
- ID の値が引用符で囲まれているときの Flash ファイルが改善されました。
- [色分け] 変数を指定した場合、ポップアップメニューに [凡例] コマンドが追加され、凡例を表示できるようになりました。

## パラレルプロット

- グラフのカスタマイズオプションでポリラインの設定ができるようになりました。

## セルプロット

- RTF ファイルに保存したときのプロットの品質が大幅に改善されました。

## ツリーマップ

- データフィルタを使用しているときにツリーマップの背景がすべて黒色になってしまうエラーが修正されました。
- ツリーマップの色が変数のサイズで重み付けされなくなりました。

## 散布図行列

- 点が密に並んだ散布図行列でのブラシ機能の性能が向上しました。

## 管理図

- ウェストガードルールが正しくプロットされるようになりました。
- 一部の行が除外されているときに管理図のテストとウェストガードルールが正しく実行されるようになりました。
- 一部の行を選択して管理図から除外した後、なげなわツールを使って管理図上の点を囲んだ場合に、正しい点を選択されるようになりました。
- [限界値の保存] で列に中央値（メディアン）を保存することはできなくなりました。
- [中心線の表示] コマンドを実行したとき、ユーザが定義した平均が正しく表示されるようになりました。
- フェーズを用いた管理図を描いた後、新しいフェーズをデータテーブルに新規追加した場合に、管理図が正しく更新されるようになりました。
- [分析の再実行] コマンドを実行したときに、ユーザによって選択されたものではない管理図が起動される問題が修正されました。
- CUSUM 管理図が、[分析の再実行] コマンドを使ったときに正しく再作成されるようになりました。
- フェーズを使った管理図が、行を削除した後に正しく更新されるようになりました。
- 非表示の点または除外した点がある管理図が、行を削除した後に正しく更新されるようになりました。
- IR 管理図の標本ラベルを指定していない場合にスクリプトが正しく保存されない問題が修正されました。
- IR、予め集計、Levey-Jennings管理図において、Kシグマに3以外の値を指定し、[限界を超えた点のテスト] コマンドを使用したときに点に正しくマークが表示されない問題が修正されました。
- フェーズを使った管理図で、なげなわツールで点を囲んだときに正しいオブザベーションが選択されるようになりました。
- 列プロパティの [管理限界] オプションを変更して後続の管理図で使用することが可能になりました。
- 標本サイズが1のUWMA管理図で標準偏差と管理限界が計算されない問題が修正されました。
- 多変量管理図の統計量が元のデータテーブルではなく、アクティブなデータテーブルに保存される問題が修正されました。
- 多変量管理図のY軸の範囲が十分でなく、UCLがグラフ内に表示されない場合がある問題が修正されました。
- 多変量管理図を一度実行した後、データテーブルの分析列を削除し、さらに統計量を計算しようとするとき JMPが終了してしまう問題が修正されました。
- [フェーズの検出] コマンドの名称が [変化点の検出] に変わりました。
- 検定統計量の [変化点の検出] において、計算式が間違っていたのが修正されました。
- 欠測値や除外の行がある時に、「多変量管理図」プラットフォームで [変化点の検出] を選択したときに JMP が終了してしまう場合がある問題が修正されました。
- CUSUM (累積和) 管理図で [データ単位] オプションを使用したときに欠測値が正しく処理されない問題が修正されました。
- 多変量管理図の [T2 乗の分割] コマンドのダイアログボックスを [キャンセル] ボタンで閉じた後、[T2 乗の分割] コマンドをもう一度選択してダイアログボックスを開いた場合に、主成分の数として不適切な値が表示される問題が修正されました。

- 環境設定の「管理図」プラットフォームオプションで、[点マーカー] を設定しても正しく動作するようになりました。
- 「工程能力」レポートで、信頼区間が長期シグマに対してのみ計算されるようになりました。

### 変動性図／ゲージチャート

- データが釣り合いの取れていない場合、基準ごとのバイアスのレポートを作成したときに、バイアスの標準誤差と t 値が正しく計算されない問題が修正されました。
- 残差と交絡している要因があるときに、Bayes法による推定値が正しく計算されない問題が修正されました。
- 片側の仕様限界を指定した場合、ゲージ分析のレポートで使用される K シグマの値が自動的に 2 で割られるようになりました。
- Bayes 法による分散成分の推定値の計算方法がわずかに変更され、計算精度が向上しました。この計算方法を使用すると、一般に推定値の誤差平方の計算精度が大幅に改善されます。
- 「変動性図」プラットフォームに関する環境設定で、[分析の種類] を使って分散成分のデフォルトの計算方法を指定できるようになりました。
- 切片と交絡している要因があるときに、Bayes 法による推定値が正しく計算されない問題が修正されました。

### パレート図

- [列の並べ替え] コマンドを実行した後に、度数分析の [ユニットあたりの比率] を実行すると、結果における比率やその信頼区間がグループと対応しなくなる問題が修正されました。
- [X, グループ変数] の列を用いる場合、その列に指定した [値の順序] 列プロパティが考慮されるようになりました。
- [自動再計算] がデフォルトでオンになりました。
- デフォルトの棒の幅が、原因の数ではなく棒の数に基づいて決定されるようになりました。

### 工程能力

- [仕様限界] オプションで、ファイル名のパスの引数に含まれる参照先が認識されるようになりました。

### プロファイル

- [条件付き予測] を一度呼び出して、その後オフにした場合、[設定の記録] で変量効果に値が表示される問題が修正されました。
- 数列の作成において組み合わせが非常に多数ある場合に、JMPが強制終了してしまう問題が修正されました。
- プロファイルにおいて因子がたとえ表示されていなくても、その因子の情報が保存されるようになりました。
- [値の色] 列プロパティが列に使用されている場合、指定されている色が交互作用プロファイルに反映されるようになりました。
- [シミュレータ] の [シミュレーション実験] を行った場合に、カテゴリカルな列があると「Gauss 過程」のテーブルプロパティが動作しない問題が改善されました。
- ドイツ語、フランス語、イタリア語の言語環境でFlashファイルに保存したときの出力が改善されています。
- カテゴリカル応答モデルの予測式の列と連続量の計算式の列を [Y, 予測式] 役割に指定した場合に、[乱数テーブルの出力] と [グリッドテーブルの出力] を実行すると JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- 計算式に指定した [パラメータ] の名前と同名のグローバル変数が存在したときに、「プロファイル」が正しく動作しない問題が修正されました。

### 等高線プロファイル

- 等高線プロファイルで、[仕様限界] の目標値、下側仕様限界、上側仕様限界が、等高線、下限、上限の初期値として使用されるようになりました。

## 曲面プロット

- 環境設定のオプションに、**[Z軸のスケールをロック]** が追加されました。
- 「計算式」に **[なし]** が設定されている場合に、スクリプトにその設定が保存され、**[分析の再実行]** コマンドなどで再現されるようになりました。
- **[自動再計算]** がデフォルトでオンになりました。
- 計算式を編集した場合でも、スクリプトにその設定が保存され、**[分析の再実行]** コマンドなどを実行すると同じ曲面プロットが再現されるようになりました。

## 配合プロファイル

- 配合プロファイルのメニューが動作しない問題が修正されました。

---

## スクリプト

- K Means クラスタ分析の平行プロットで **[データの表示]** と **[平均の表示]** オプションがスクリプト可能になりました。
- JSL を使って計画を作成した場合に、「カスタム計画」レポートに線形制約が表示されるようになりました。
- JSL で同じデータテーブルを 2 回繰り返すと JMP が終了してしまう問題が修正されました。
- 多数のテーブルを連結する JSL が正しく動作するようになりました。
- レポートウィンドウに保存したスクリプトの行が適切に折り返されるようになりました。
- **V Sheet Box** コマンドと **H Sheet Box** コマンドで、データフィルタを使用した際のオブジェクトの描画が改善されました。
- フレームボックスに囲まれたグラフが、小さいウィンドウ内でもそのままのサイズで表示されるようになりました。
- **Get Picture** メッセージで取得したフレームボックスの周りの線が正しく描画されるようになりました。
- **[By グループでまとめてスクリプト化]** コマンドが複数の **Y** を処理できるようになりました。
- **Window("window title")** コマンドが、指定のタイトルに一致するウィンドウがないときに空白のリストを戻すようになりました。
- Linux マシンで、**Script Box** オブジェクトにテキストを入力できるようになりました。
- 計算式を含む新しい列をデータテーブルに追加したときに、その計算式が自動的に再計算されるようになりました。
- タブボックスを別のタブボックスに追加 (**Append**、**Prepend**) したときに JMP が終了してしまうエラーが修正されました。
- **Global Box** オブジェクトで、JMP の表示言語の設定に合った小数点の記号が表示されるようになりました。
- (たとえば、「要約」プラットフォームを使用して) データテーブルから派生的に作成されたデータテーブルが存在する場合、**dt:col** のようなテーブル参照を用いて列を参照する際の問題が修正されました。
- 外部 DLL の関数に渡された Unicode 文字列が途中で切られることがなくなりました。
- 参照がない場合の連想配列の処理が改善されました。
- JSL を使ってデータテーブルを Excel ファイルとして閉じ、保存したときに、変更の保存を求めるプロンプトが表示されなくなりました。
- タブボックスの中に含まれるオブジェクトが、別のタブボックスをクリックしたときに表示されてしまう描画の問題が修正されました。
- カンマで桁を区切られた負数の文字列を **Num** 関数を使って数値に変換したときに、欠測値に変換されなくなりました。
- ジャーナルウィンドウに **Close Window** メッセージを送ったときに「保存」ダイアログボックスが表示されなくなりました。

## JMP 8.0.1 リリースノート

- QR 関数で、行や列に従属性がある行列の処理が改善されました。
- 列の計算式で `Get As Matrix` を使用したときに、不要なループ処理が発生する問題が修正されました。
- `Dialog()` 内の `Combo Box` で 30 を超える項目を使用できるようになりました。
- データテーブルのウィンドウサイズを調整する `Maximize Display` コマンドが正しく動作するようになりました。
- Linux マシンで、キャプションを右クリックで閉じることができるようになりました。
- `Column Dialog` で、「列の選択」ボックスに行の属性の列が表示されるようになりました。
- 削除したディスプレイボックスを参照したときに JMP が終了してしまうエラーが修正されました。
- `Text Edit Box` に割り当てられたスクリプトが正しく処理されるようになりました。
- `Col List` 関数の引数 `Min Col` が正しく動作するようになりました。
- `Suppress Formula Eval` コマンドが正しく動作するようになりました。
- [最小2乗法によるあてはめ] と [分割表] で、`Auto Recalc` オプションが JSL スクリプトに正しく保存されるようになりました。
- 列ダイアログボックスで [キャンセル] ボタンが正しく動作するようになりました。
- ウィンドウ内のボタンをスクリプトで削除したときに、そのボタンにスクリプトが割り当てられていると JMP が終了してしまうエラーが修正されました。
- `Include` 関数内で暗号化したスクリプトを使用したときに JMP が終了してしまうエラーが修正されました。
- JSL スクリプトで `Begin/End Data Update` を使用して列を移動させた後、テーブルが正しく作成されるようになりました。
- 結合後のテーブルに `For Each Row` を使用したときの問題が修正されました。
- 「表の作成」で `Close Window` メッセージが正しく機能するようになりました。
- `SASGETLOG()` を使用したときに大規模な SAS ログが途中で切られるということがなくなりました。
- `SASDISCONNECT()` コマンドを実行すると、進行中の SAS サブミットがすべて自動的にキャンセルされるようになりました。
- Macintosh マシンで `SASCONNECT()` コマンドを実行したときに JMP が終了してしまうエラーが修正されました。
- `List Box` オブジェクトの `Max Selected(n)` オプションが、ドラッグする方法でリストの複数項目を選択したときでも機能するようになりました。
- Linux マシンで、テキストボックスに表示されるテキストの文字数が 200 を超えている場合でもテキストが途中で切れなくなりました。
- 「一変量の分布」であてはめた分布を `Remove Fit()` を使って削除できるようになりました。
- `Random Gamma Poisson` 関数が、特定のパラメータの組み合わせに対して欠測値を戻さなくなりました。
- 「モデルのあてはめ」の [対数線形 - 分散] 手法で、[列の保存] および [行ごとの診断統計量] のコマンドがスクリプト可能になりました。
- `Graph Builder` の `Order By` オプションで第 2 引数を空白にしたときに JMP が終了してしまうエラーが修正されました。
- `Control Chart` の `Get Limits` コマンドが、テーブルに限界を保存した列が複数ある場合に機能するようになりました。
- 「プロファイル」の [限界で折り返し] コマンドがスクリプト可能になりました。
- パスを指定せずに `Save RTF()` メッセージと `Save MSWord()` メッセージを使ってファイルを保存したときに、名前を付けて保存ダイアログではそれぞれのファイルの種類で保存できない問題が修正されました。

## スクリプトエディタと JSL デバッガ

- プラットフォームのスクリプトを実行したときに、ウィンドウタイトルに不必要な「2」が表示されなくなりました。
- [スクリプトを再フォーマット] を実行した場合に、行に項目が 1 ~ 2 個しかない行列に対する処理が改善されました。
- JSL デバッガ内で Watch が正しく動作するようになりました。

## JSL 関数の索引

- JSL 関数の索引にある関数をコピーしてスクリプトエディタに貼り付けたときに JMP が終了してしまうエラーが修正されました。
- Beta Density、Beta Distribution、Beta Quantile、Random Beta 関数の引数に theta と sigma の記載が追加されました。
- Inv Update 関数の説明とスクリプト例が更新されました。
- Host Is 関数の引数に Bits32 と Bits64 の記載が追加されました。

## オブジェクトスクリプトの索引

- オブジェクトスクリプトの索引に表示される Control Chart のオブジェクトが 1 つだけになりました。

## オートメーション

- 行が追加または削除されているときに GetColumn と GetColumnByIndex を実行すると JMP が終了してしまうエラーが修正されました。
- CellPlot の Legend メソッドが正しく動作するようになりました。
- FitParametricSurvival の EstimateSurvivalProb メソッドと EstimateTimeQuantile メソッドが正しく動作するようになりました。
- 列数が 1 万を超えるテキストファイルを JMP に読み込めるようになりました。
- AddToSummaryStatList を実行すると JMP が終了してしまう問題が修正されました。

---

## Windows

- データテーブルの「列」パネルに表示される列名が、コントラストを高く設定しても読めるようになりました。
- Windows Vista で、Ctrl キーと O キーを同時に押すと、[ファイル] > [開く] を選択したとき、またはツールバーで [開く] ボタンをクリックしたときと同じダイアログボックスが表示されるようになりました。